



## 第1部: 民事信託の必要性と社会背景

### ◆ 信託の歴史



信託は、古くから存在する法律上の制度であり、その起源は古くはローマ法に遡る。中世ヨーロッパでは、領主や教会が土地を管理するために、領下民や僧侶に土地を委託し、その利益の一部を享受させるという形で信託が利用された。近代以降、信託は個人の財産管理や相続、慈善事業などにおいて重要な役割を果たしている。また、信託は、個人の自由意思に基づき、財産を特定の目的のために管理させるという点において、他の法律上の制度と異なる特徴を持っている。

信託の歴史は、個人の財産管理の手段として発展してきた。中世ヨーロッパでは、領主や教会が土地を管理するために、領下民や僧侶に土地を委託し、その利益の一部を享受させるという形で信託が利用された。近代以降、信託は個人の財産管理や相続、慈善事業などにおいて重要な役割を果たしている。また、信託は、個人の自由意思に基づき、財産を特定の目的のために管理させるという点において、他の法律上の制度と異なる特徴を持っている。

近代以降、信託は個人の財産管理や相続、慈善事業などにおいて重要な役割を果たしている。また、信託は、個人の自由意思に基づき、財産を特定の目的のために管理させるという点において、他の法律上の制度と異なる特徴を持っている。